

一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴う  
埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ

鳥取県西伯郡名和町

# 名和中畝遺跡

2005

財団法人 鳥取県教育文化財団  
国土交通省 倉吉河川国道事務所

## 序

近年、鳥取県では妻木晩田遺跡、青谷上寺地遺跡をはじめとする古代の重要な遺跡の発見が相次いでおり、当時の集落の姿や暮らしの様子が具体的に語られるようになりつつあります。

先人が残した素晴らしい遺産を後世に伝承することは、現在に生きる私たちの重要な責務です。

ところで、県内においては、現在、山陰自動車道の整備が着々と進められているところでありますが、当財団は、国土交通省からの委託を受け、この事業に係わる一般国道9号（東伯中山道路・名和淀江道路）の改築に先立つ埋蔵文化財の発掘調査を実施してきました。

そのうち、名和町にある名和中畝遺跡では、古墳時代の竪穴住居跡からかまどがたどき竈形土器が使用時のまま出土するなど、この地域の歴史を解明するための重要な資料を確認することができました。発掘調査終了直前には、現地説明会を開催し多くの方々の御来場をいただいたところですが、このたび、調査結果を報告書としてまとめることができました。

この報告書が、今後、郷土の歴史を解き明かしていく一助となり、埋蔵文化財に対する理解がより深まることを期待しております。

本書をまとめるにあたり、国土交通省倉吉河川国道事務所、地元関係者の方々には、一方ならぬ御指導、御協力を頂きました。心から感謝し、厚く御礼申し上げます。

平成17年3月

財団法人 鳥取県教育文化財団  
理事長 有田 博 充



# 序 文

一般国道9号は、起点の京都府京都市から山口県下関市にいたる、総延長約691kmの幹線道路であり、西日本日本海沿岸地域の産業・経済活動の大動脈として、地域住民の生活と密着し大きな役割を果たしています。

このうち、国土交通省倉吉河川国道事務所は、東伯郡湯梨浜町から米子市（鳥取一島根県境）までの76.6kmを管轄しており、時代の要請に沿った各種の道路整備事業を実施しているところです。

名和淀江道路は、西伯郡名和町から西伯郡大山町にかけての、国道9号の渋滞緩和、荒天時の交通障害の解消、また、災害時の緊急輸送の代替道路確保、などを目的として計画された高規格幹線道路（自動車専用道路）であり、鋭意事業に着手しているところです。

このルートには、多数の埋蔵文化財包蔵地がありますが、鳥取県教育委員会と協議を行い、文化財保護法第57条の3の規定に基づき、鳥取県教育委員会教育長に通知した結果、事前に発掘調査を実施し、記録保存を行うこととなりました。

平成16年度は、「名和中畝遺跡」、「名和飛田遺跡」、「門前上屋敷遺跡」、「門前第2遺跡」の4遺跡について財団法人鳥取県教育文化財団と発掘調査の委託契約を締結し、同埋蔵文化財センターによって発掘調査が行われました。

本書は、上記の「名和中畝遺跡」の調査成果をまとめたものです。この貴重な記録が、文化財に対する認識と理解を深めるため、ならびに、教育及び学術研究のために広く活用されることを願うと同時に、国土交通省の道路事業が、文化財保護に深い関心を持ち、記録保存に努力していることをご理解いただければ幸いと存じます。

事前の協議をはじめ、現地での調査から報告書の編集にいたるまで御尽力いただいた財団法人鳥取県教育文化財団の関係者に対して、心から感謝申し上げます。

平成17年3月

国土交通省 倉吉河川国道事務所  
所 長 嘉本 昭夫



# 例 言

1. 本報告書は、国土交通省倉吉河川国道事務所の委託により、財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センターが「一般国道9号（名和淀江道路）の改築に伴う埋蔵文化財発掘調査」として平成16年度に実施した調査報告書である。
2. 本報告書に記載した遺跡の所在地、遺跡名、調査面積は、以下のとおりである。

|      |                             |
|------|-----------------------------|
| 所在地  | 鳥取県西伯郡名和町大字名和字中畝1083ほか      |
| 遺跡名  | 名和中畝遺跡 <sup>なわなかうねいせき</sup> |
| 調査面積 | 9,340㎡                      |
3. 本報告書における方位は公共座標北を示し、座標値は、世界測地系に準拠した公共座標第V系の値である。また、レベルは海拔標高を表す。
4. 本報告書に掲載した地図は、国土地理院発行の1/25,000地形図「淀江」「御来屋」「船上山」を縮小して使用した。
5. 本発掘調査にあたり出土した鉄関連遺物の分類をたたら研究会委員穴澤義功氏に、土器の胎土分析を岡山理科大学白石純氏に、出土石器の石材鑑定を大山自然公園指導員の会顧問遠藤勝壽氏にお願いし、白石氏には玉稿を賜った。記して感謝いたします。
6. 本報告における出土炭化材樹種同定、遺跡の航空写真撮影、現地における基準点測量および地形測量をそれぞれ業者委託した。出土炭化材樹種同定については、同定結果報告を第4章に掲載している。
7. 遺物の実測・浄書、掲載図面の作成・浄書は文化財主事、調査員および整理作業員が行った。一部の石器実測・浄書は業者に委託した。
8. 現場および遺物の写真撮影は文化財主事、調査員が行った。
9. 本報告書の作成は加藤裕一、木山清貴、日置 智が行い、編集は加藤が担当した。文責は目次および文末に記載している。
10. 発掘調査によって作成された図面、写真などの記録類、および出土遺物などは鳥取県埋蔵文化財センターに保管している。
11. 現地調査および報告書の作成にあたっては上記の方々のほかに、下記の方々から御指導、御助言および御支援いただいた。明記して深謝いたします。（敬称略、順不同）  
辻 信広（名和町教育委員会）、佐伯純也（米子市教育文化事業団）

# 凡 例

1. 遺跡の略称はNNKとした。
2. 遺構図の基本的な縮尺は以下のとおりである。  
 竪穴住居・竪穴… 1／60 掘立柱建物… 1／80 土坑・溝… 1／40
3. 本報告書における遺物番号は次のように記す。  
 番号のみ：土器・土製品 S：石器 F：鉄製品
4. 挿図、遺構・遺物にはそれぞれ通し番号をつけた。
5. 本文中、挿図中および写真図版の遺物番号は一致する。
6. 遺物実測図のうち須恵器は断面を黒塗りし、それ以外は白抜きで表した。
7. 遺物には遺跡名略称、グリッド名、遺構名、取上げ番号、取上げ年月日を基本的に注記した。
8. 遺物観察表は各挿図に付して掲載した。基本的に法量は、土器は口径・器高を、石器は最大長・最大幅・最大厚・重量を記載した。法量記載における\*は推定復元値、△は現存値を示す。
9. 発掘調査時における遺構名・番号は報告書作成時に一部変更した。新旧の対照は下記に示す。
10. 遺構・遺物の時期決定には主に下記の文献を参照した。

清水真一 1992「因幡・伯耆地域」『弥生土器の様式と編年（山陽・山陰編）』木耳社

大谷晃二 1994「出雲地域の須恵器の編年と地域色」『島根考古学会誌』第11集

松井 潔 1997「東の土器、南の土器－山陰東部における弥生時代中期後葉～古墳時代初頭の非在地系土器の動態」『古代吉備』19集

牧本哲雄 1999「古墳時代の土器について」『長瀬高浜遺跡Ⅷ、園第6遺跡』鳥取県教育文化財団

濱田竜彦 2003「大山山麓地域における弥生時代後期土器の編年」『史跡妻木晩田遺跡第4次発掘調査報告書』鳥取県教育委員会

岡野雅則 2004「古墳時代中期後葉から後期の土器について」『茶畑遺跡群 第3分冊 古御堂笹尾山遺跡 古御堂新林遺跡』鳥取県教育文化財団

新旧遺構名対応表

| 新遺構名    | 旧遺構名 | 新遺構名    | 旧遺構名 | 新遺構名 | 旧遺構名 | 新遺構名 | 旧遺構名 |
|---------|------|---------|------|------|------|------|------|
| 竪穴住居 1  | SI 2 | 掘立柱建物 6 | SB10 | 土坑 7 | SK49 | 土坑16 | SK51 |
| 竪穴住居 2  | SI 4 | 掘立柱建物 7 | SB 9 | 土坑 8 | SK52 | 土坑17 | SK53 |
| 竪穴住居 3  | SI 5 | 竪穴 1    | SI 3 | 土坑 9 | SK50 | 土坑18 | SX 1 |
| 竪穴住居 4  | SI 1 | 土坑 1    | SK67 | 土坑10 | SK55 | 溝 1  | SD 2 |
| 掘立柱建物 1 | SB 2 | 土坑 2    | SK57 | 土坑11 | SK56 | 溝 2  | SD 3 |
| 掘立柱建物 2 | SB 7 | 土坑 3    | SK66 | 土坑12 | SK62 | 溝 3  | SD 4 |
| 掘立柱建物 3 | SB 4 | 土坑 4    | SK60 | 土坑13 | SK59 |      |      |
| 掘立柱建物 4 | SB 5 | 土坑 5    | SK61 | 土坑14 | SK64 |      |      |
| 掘立柱建物 5 | SB 6 | 土坑 6    | SK65 | 土坑15 | SK63 |      |      |

# 目次

|                     |                   |
|---------------------|-------------------|
| 序                   |                   |
| 序文                  |                   |
| 例言・凡例               |                   |
| 第1章 調査の経緯と経過        | (加藤) 1            |
| 第2章 位置と環境           | (木山) 3            |
| 第3章 調査の内容           | 6                 |
| 1. 調査の概要と土層堆積       | (加藤) 6            |
| 2. 縄文時代の遺構と遺物       | 11                |
| 土坑                  | (加藤) 11           |
| 遺構外出土土器             | (加藤) 12           |
| 遺構外出土石器             | (加藤) 13           |
| 3. 弥生時代の遺構と遺物       | 19                |
| 竪穴住居1               | (日置) 19           |
| 竪穴住居2               | (加藤) 23           |
| 竪穴住居3               | (加藤) 23           |
| 4. 古墳時代の遺構と遺物       | 31                |
| 竪穴住居4               | (加藤) 31           |
| 5. その他の遺構と遺物        | 32                |
| 掘立柱建物               | (日置) 33           |
| 竪穴                  | (日置) 35           |
| 溝                   | (木山) 36           |
| 土坑                  | (木山) 39           |
| 遺構外出土石器             | (加藤) 44           |
| ピット計測表              | 46                |
| 第4章 特論              | 49                |
| 1. 名和中畝遺跡出土土器胎土分析   | 白石 純 49           |
| 2. 名和中畝遺跡出土炭化材の樹種同定 | パリーノ・サーヴェイ株式会社 52 |
| 第5章 まとめ             | 54                |
| 1. 調査のまとめ           | (加藤) 54           |
| 2. 移動式竈について         | (加藤) 55           |

# 挿図目次

|                   |   |                   |    |
|-------------------|---|-------------------|----|
| 図1 調査地位置          | 1 | 図6 調査地土層断面(3)     | 9  |
| 図2 遺跡の分布          | 5 | 図7 調査地遺構配置        | 10 |
| 図3 調査前地形およびトレンチ配置 | 6 | 図8 土坑1・2・3および出土遺物 | 11 |
| 図4 調査地土層断面(1)     | 7 | 図9 遺構外出土土器        | 12 |
| 図5 調査地土層断面(2)     | 8 | 図10 グリッド別石器出土量概念図 | 13 |



|     |               |    |     |                            |    |
|-----|---------------|----|-----|----------------------------|----|
| 図11 | 石材および器種別組成図   | 13 | 図31 | 掘立柱建物 5・6                  | 35 |
| 図12 | 石鏃 (1)        | 14 | 図32 | 掘立柱建物 7                    | 36 |
| 図13 | 石鏃 (2)        | 15 | 図33 | 竪穴 1                       | 36 |
| 図14 | 楔形石器、スクレイパー   | 16 | 図34 | 溝 1                        | 37 |
| 図15 | 石核、剥片         | 17 | 図35 | 溝 2・3                      | 37 |
| 図16 | 石匙            | 18 | 図36 | 土坑 4・5                     | 38 |
| 図17 | 弥生時代・古墳時代遺構分布 | 19 | 図37 | 土坑 6・7                     | 39 |
| 図18 | 竪穴住居 1 (1)    | 20 | 図38 | 土坑 8・9・10・11・12・13         | 40 |
| 図19 | 竪穴住居 1 (2)    | 21 | 図39 | 土坑 14・15                   | 41 |
| 図20 | 竪穴住居 1 出土遺物   | 22 | 図40 | 土坑 16・17・18                | 43 |
| 図21 | 竪穴住居 2        | 24 | 図41 | 遺構外出土石器 (1)                | 44 |
| 図22 | 竪穴住居 2 出土遺物   | 25 | 図42 | 遺構外出土石器 (2)                | 45 |
| 図23 | 竪穴住居 3 (1)    | 26 | 図43 | 遺跡内での時期別の胎土の比較 (K-Ca)      | 50 |
| 図24 | 竪穴住居 3 (2)    | 27 | 図44 | 遺跡内での時期別の胎土の比較 (Rb-Sr)     | 51 |
| 図25 | 竪穴住居 3 出土遺物   | 28 | 図45 | 古墳後期土器の器種・焼成別胎土の比較 (K-Ca)  | 51 |
| 図26 | 竪穴住居 4        | 29 | 図46 | 古墳後期土器の器種・焼成別胎土の比較 (Rb-Sr) | 51 |
| 図27 | 竪穴住居 4 出土遺物   | 30 | 図47 | 竪穴住居 4 間取り想定図              | 54 |
| 図28 | その他の遺構配置      | 32 | 図48 | 移動式竈部位名称 (近澤1992をもとに作図)    | 55 |
| 図29 | 掘立柱建物 1・2     | 33 | 図49 | 山陰地域の移動式竈変遷図               | 56 |
| 図30 | 掘立柱建物 3・4     | 34 |     |                            |    |

## 図版目次

### (カラー図版)

- 1-1 調査地周辺の地形 (東から)
- 1-2 調査後調査地全景 (左が北西方向)
- 2 調査地完掘状況 (南から)
- 3-1 竪穴住居 4 遺物出土状況 (南西から)
- 3-2 移動式竈出土状況 (北西から)
- 4-1 竪穴住居 4 完掘状況 (南西から)
- 4-2 竪穴住居 4 竈下焼土検出状況 (北西から)
- 4-3 竪穴住居 4 貼床除去後完掘状況 (南西から)

### (図版)

- 1-1 竪穴住居 1 土層断面状況 (南から)
- 1-2 竪穴住居 1 b 完掘状況 (西から)
- 1-3 竪穴住居 1 b P13根石検出状況 (南から)
- 2-1 竪穴住居 1 a 完掘状況 (北西から)
- 2-2 竪穴住居 2 遺物出土状況 (西から)
- 2-3 竪穴住居 2 完掘状況 (西から)
- 3-1 竪穴住居 3 遺物出土状況 (南西から)
- 3-2 竪穴住居 3 炭化材検出状況 (東から)
- 3-3 竪穴住居 3 完掘状況 (西から)
- 4-1 調査地中央部ピット群完掘状況 (南東から)
- 4-2 調査地南側ピット群完掘状況 (北から)
- 5-1 掘立柱建物 1 完掘状況 (北西から)
- 5-2 掘立柱建物 2・3・4 完掘状況 (北から)
- 5-3 掘立柱建物 5 完掘状況 (北から)
- 6-1 掘立柱建物 6 完掘状況 (北から)
- 6-2 掘立柱建物 7 完掘状況 (南東から)
- 6-3 竪穴 1 完掘状況 (南東から)
- 7-1 溝 1 完掘状況 (東から)
- 7-2 溝 2 土層断面状況 (南西から)
- 7-3 溝 3 完掘状況 (西から)
- 8-1 土坑 1・2・3 土層断面状況 (東から)
- 8-2 土坑 2 完掘状況 (東から)
- 8-3 土坑 1 完掘状況 (南東から)
- 8-4 土坑 4 完掘状況 (西から)
- 8-5 土坑 5 完掘状況 (北から)
- 8-6 土坑 6 土層断面状況 (南から)
- 9-1 土坑 7 完掘状況 (東から)
- 9-2 土坑 10・11 完掘状況 (南西から)
- 9-3 土坑 8 土層断面状況 (北から)
- 9-4 土坑 8・9 完掘状況 (北東から)
- 9-5 土坑 12 完掘状況 (西から)
- 9-6 土坑 13 土層断面状況 (東から)
- 10-1 土坑 15 炭化材検出状況 (北から)
- 10-2 土坑 14 土層断面状況 (東から)
- 10-3 土坑 14 完掘状況 (北東から)
- 10-4 土坑 16 底部炭・焼土検出状況 (南から)
- 10-5 土坑 17 底面炭検出状況 (西から)
- 10-6 土坑 18 土層断面状況 (西から)
- 11 竪穴住居 4 出土遺物
- 12-1 竪穴住居 4 出土移動式竈 (1)
- 12-2 竪穴住居 4 出土移動式竈 (2)
- 12-3 竪穴住居 2・4 出土鉄製品
- 12-4 竪穴住居 4 出土鉄製品
- 12-5 竪穴住居 4 出土鉄製品 X線写真
- 13-1 竪穴住居 1 出土土器
- 13-2 竪穴住居 1 出土石器
- 13-3 竪穴住居 2 出土土器
- 13-4 竪穴住居 2 出土石器
- 14-1 竪穴住居 2 出土鉄製品
- 14-2 竪穴住居 2 出土鉄製品 X線写真
- 14-3 竪穴住居 3 出土土器
- 14-4 竪穴住居 3 出土石器
- 14-5 土坑 1・2・3 出土土器
- 15-1 遺構外出土土器
- 15-2 遺構外出土石器 (1)
- 15-3 遺構外出土石器 (2)
- 16 竪穴住居 3 出土炭化材樹種同定顕微鏡写真

# 第1章 調査の経緯と経過

## 1. 調査の経緯・経過

一般国道9号は京都市から兵庫県、鳥取県、島根県を通り山口県下関市まで続く総延長691kmの幹線道路である。名和町内での道路建設計画地では多くの埋蔵文化財包蔵地が確認されている。名和町大字名和字中畝に所在する名和中畝遺跡は名和淀江道路におけるインターチェンジ建設予定地に該当し、埋蔵文化財の存在が予測できたため、名和町教育委員会は鳥取県教育委員会文化課との協議により試掘調査を実施した。その結果、遺構・遺物の存在が確認された。これらを受けて、道路設営者である国土交通省倉吉河川国道事務所は文化財保護法第57条の3の規定に基づく発掘の通知を鳥取県教育委員会教育長に提出、財団法人鳥取県教育文化財団に発掘調査を委託し、財団法人鳥取県教育文化財団埋蔵文化財センターが発掘調査を実施することとなった。調査面積は、9,340㎡である。

調査に先立ち、調査前航空写真撮影、地形測量・基準点測量を実施した。4月21日から26日にかけて調査地南側に設定した廃土置場周辺以外の表土剥ぎを行い、4月26日から調査に着手した。調査は調査地北側から南側に向けてトレンチを随時設定して進めた（トレンチ配置、土層堆積の概要については第3章1を参照）。8月19日、20日には、調査地北側の調査が概ね終了したのに併せて調査地南側の表土剥ぎを行い、順次南側の調査にかかった。調査中に発生する掘削土は廃土置場から随時搬出した。調査終了に伴い、10月18日から調査後航空写真撮影、調査後地形測量を実施し、10月27日に調査全工程を終了した。

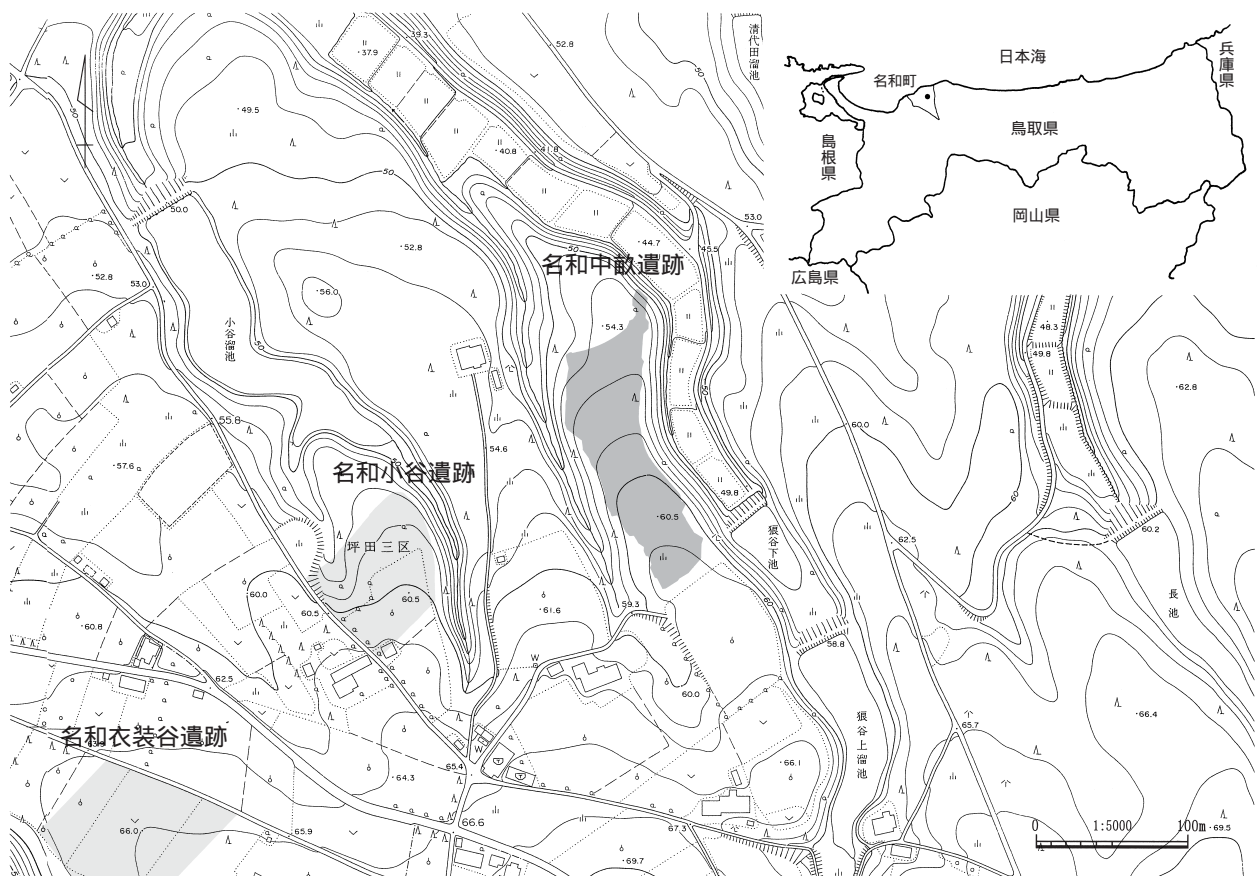


図1 調査地位置

また、10月2日に名和飛田遺跡と合同で現地説明会を開催した。あいにくの雨で天候に恵まれなかったが、40人を超える方々の参加を得ることができた。

(加藤)

## 2. 調査体制

調査は、以下の体制で実施した。

### ○調査主体

財団法人鳥取県教育文化財団

理 事 長 有田 博充

事 務 局 長 中村 登

埋蔵文化財センター

所 長 田中 弘道 (兼・県埋蔵文化財センター所長)

次 長 (事 務) 竹内 茂

次 長 (専 門) 加藤 隆昭

調 査 課

課長 (兼次長) 加藤 隆昭

企画調整班長 山根 雅美

文化財主事 大野 哲二、下江 健太

庶 務 課

課長 (兼次長) 竹内 茂

主 幹 福田 高之

事 務 職 員 大川 秋子、谷垣真寿美、山根 美代、小谷 有里

### ○調査担当 名和調査事務所

所 長 國田 俊雄

班 長 西川 徹

文化財主事 中森 祥、浜田 真人 (門前第2遺跡担当)

森本 倫弘 (門前上屋敷遺跡担当)

加藤 裕一、木山 清貴 (名和中畝遺跡担当)

北 浩明 (名和飛田遺跡担当)

調 査 員 湯川 善一 (門前第2遺跡担当)

日置 智 (名和中畝遺跡担当)

三木 雅子 (名和飛田遺跡担当)

調 査 補 助 員 遠藤万須美、中橋 智明、秦 美香、山本 宗昭

事 務 補 助 員 金田 かおる

### ○調査指導 鳥取県教育委員会事務局文化課

### ○調査協力 名和町教育委員会

## 第2章 位置と環境

### 1. 地理的環境

名和町は鳥取県の西部、米子市の東方約20kmに位置し、東は中山町、南西は大山町に接している。北は日本海に臨み、北北西約70km先に位置する隠岐島を望む大山の裾野地帯にある。大山を水源とする真子川・名和川・阿弥陀川が北流して、日本海に注いでいる。名和町域の地形は弥山などから噴出した名和火砕流、弥山火砕流などを基盤とする。西部は阿弥陀川によって形成された県下最大級の阿弥陀川扇状地が広がる。東部は火山台地が発達し、真子川などの河川と、無数に派生する谷によって台地・丘陵・段丘が開削されている。いくつかの台地は広く緩やかな傾斜が続き、名和中畝遺跡はこのような台地上に立地している。

### 2. 歴史的環境

#### 旧石器時代～縄文時代

旧石器時代は、門前第2遺跡（西畝地区）で、2万5千年以上前の地層から黒曜石製のナイフ形石器を主体とする石器群が確認されている。ほかに名和小谷遺跡、押平尾無遺跡<sup>おしなら</sup>で、黒曜石製石器が出土している。

縄文時代は、草創期の有舌尖頭器が、下大山第6遺跡、陣構第3遺跡で出土している。早期は、門前第2遺跡（菖蒲田地区）で配石遺構群と押型文土器、古御堂金蔵ヶ平遺跡<sup>こみどうかなくらがなる</sup>、上大山第1遺跡<sup>すみづか</sup>、角塚遺跡、高田第4遺跡、高田第10遺跡で押型文土器、茶畑山道遺跡で撚糸文土器が出土している。名和飛田遺跡では、早期末の隆帯文土器や黒曜石製石器をはじめとする多量の遺物が出土している。前期は大山町の中高遺跡、中期は名和衣装谷遺跡、中山町の細工塚遺跡で土坑や遺物が出土している。後期は、古御堂遺跡や名和飛田遺跡、南川遺跡がある。南川遺跡では、西日本では珍しい五角形の石組炉をもつ後期初頭の住居跡が確認されている。晩期は、大塚第3遺跡、高田第10遺跡<sup>もずら</sup>、文殊領屋敷遺跡などがある。

#### 弥生時代

前期は、大塚岩田遺跡で環濠らしきV字状の断面をもつ溝が検出されている。名和飛田遺跡、茶畑山道遺跡で土器片が出土している。中期は、茶畑山道遺跡で独立棟持柱付掘立柱建物跡や線刻絵画土器が検出されており、中期中葉～後葉頃にかけて、この地域の拠点集落であったと推測されている。南側に位置する茶畑六反田遺跡で竪穴住居跡と小型の掘立柱建物跡、蛇ノ川を隔て東側に位置する茶畑第1遺跡で竪穴住居跡や独立棟持柱をもつ大型掘立柱建物跡、南西側に位置する押平弘法堂遺跡で土壙墓9基が検出されている。北東に約2km離れた名和飛田遺跡では竪穴住居跡とシカの線刻絵画土器が確認されている。後期は、大塚塚根遺跡、押平尾無遺跡、東高田遺跡、茶畑第2遺跡、茶畑六反田遺跡、名和飛田遺跡、大山町の塚田遺跡で集落跡が確認されている。東高田遺跡と名和飛田遺跡で、竪穴住居跡からガラス玉が出土している。大山町から淀江町にかけての丘陵上に位置する妻木晩田遺跡では、多数の竪穴住居跡のほか、四隅突出型墳丘墓や環濠などが検出されている。終末期から古墳時代前期にかけて、茶畑第1遺跡、押平尾無遺跡、古御堂笹尾山遺跡で、竪穴住居跡が確認されている。

### 古墳時代

ハンボ塚古墳は、径33mを測る中期後半の円墳で、円筒埴輪や人物形や水鳥形の形象埴輪が出土している。中山町の高塚古墳も同時期である。後期の古墳群として、茶畑古墳群、高田古墳群、門前古墳群、富長山村古墳群、坪田古墳群、豊成古墳群などがある。押平尾無遺跡で前・中期の竪穴住居跡、大塚塚根遺跡と古御堂笹尾山遺跡で中～後期の竪穴住居跡、名和飛田遺跡で中期末の竪穴住居跡、後期末の竪穴住居跡と大型の掘立柱建物跡、彩色記号の施された須恵器が確認されている。

### 奈良～平安時代

奈良時代は、高田原廃寺で乱石積基壇や溝が検出され、淀江町の上淀廃寺跡と同型式の単弁十二葉蓮華文の軒丸瓦が出土している。阿弥陀川河口近くの大塚屋敷遺跡は、7世紀後半から8世紀にかけての掘立柱建物跡が検出されており、倉庫群と推測されている。生産遺跡では、栃原窯跡で穴窯跡を確認している。

平安時代は、茶畑六反田遺跡で緑釉陶器や墨書土器を含む条里区画とみられる溝が検出されている。主軸はほぼ南北方向をとる。また、小規模な区画の水田跡が確認されている。名和乙ヶ谷遺跡で鉄滓と鉄生産に関係すると推測される道路跡、名和衣装谷遺跡で大型の掘立柱建物跡と緑釉陶器や灰釉陶器を検出している。生産遺跡では、上寺谷遺跡で製鉄炉跡を確認している。

### 鎌倉～室町時代

茶畑六反田遺跡、文殊領屋敷遺跡、押平弘法堂遺跡は、いずれも鎌倉時代後半に集落が廃絶したと考えられる。その後形成されたと思われる耕作痕跡が茶畑六反田遺跡や文殊領屋敷遺跡で検出しており、集落から畑作地へ土地利用の変換があったことが推測されている。押平弘法堂遺跡で掘立柱建物跡のほか土壇墓から青磁皿が出土している。門前上屋敷遺跡では、堀と推測される大溝が検出されている。

名和町には元弘3（1333）年、隠岐島を脱出した後醍醐天皇を迎えた名和長年ゆかりとされる旧跡が多数存在するが、考古学的にその事を裏付ける遺跡は今のところ確認されていない。しかし、名和氏とつながりのあった荒松氏によって築かれたという伝承のある富長城跡や長野城跡が残っている。門前礎石群で礎石建物跡を検出、白磁・青磁・染付などが出土しており、中世以降の寺院跡の可能性が指摘されている。浜ノ坂遺跡で室町期とみられる和鏡が土壇墓に副葬されている。

### 近世以降

寛永9（1632）年に岡山藩主であった池田光仲が鳥取藩主となる。御来屋は伯耆街道の宿駅、藩の運上米の積出港として重要な位置を占め、汗入郡の中心地であった。明治35年、鉄道が境～御来屋間を結ぶ。昭和29年に光徳村、御来屋村、名和村、庄内村が合併し、今日の名和町となった。さらに、2005年3月には中山町、大山町と3町合併し、新しい町大山町として歴史を歩みだそうとしている。

（木山）

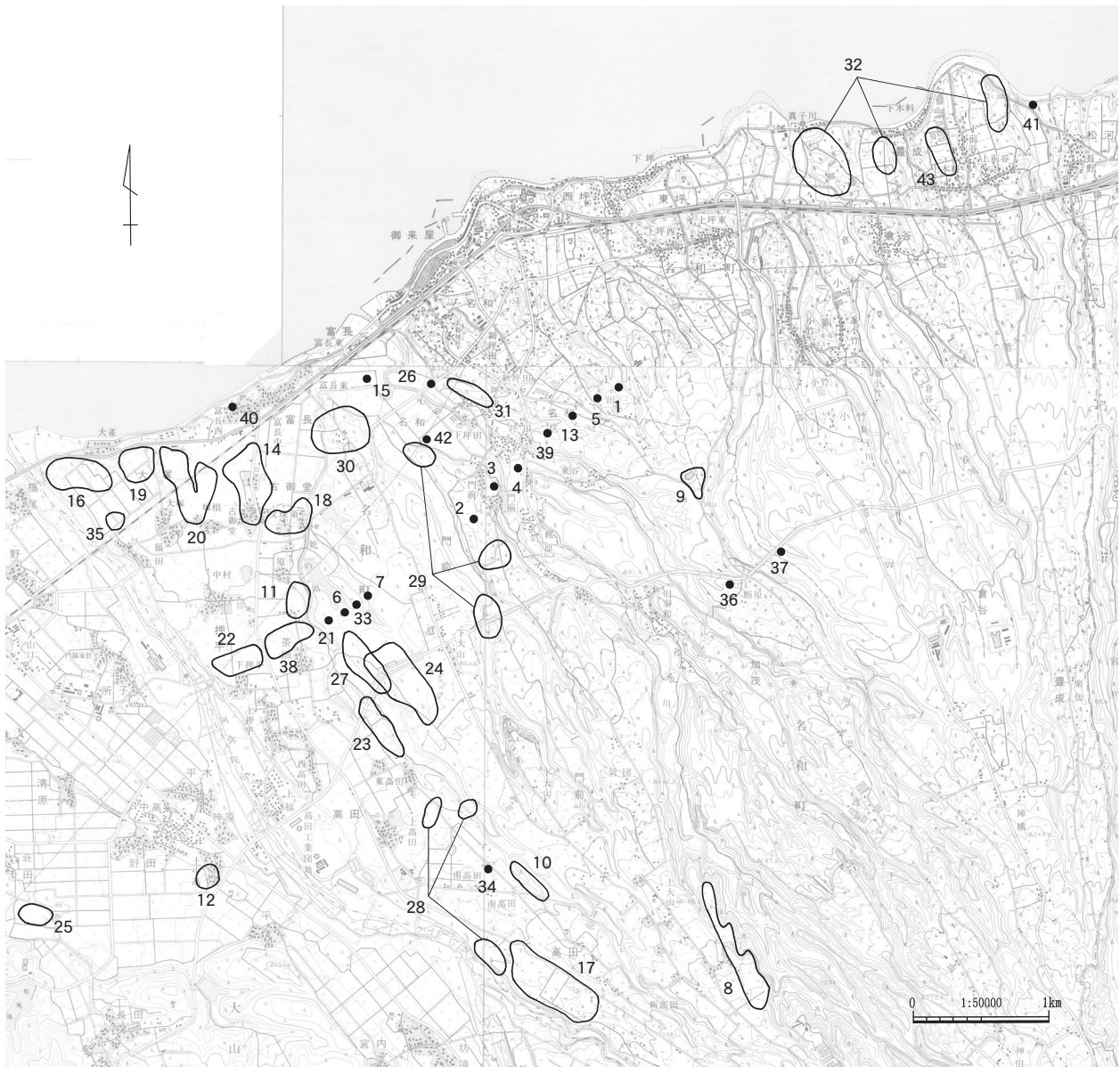


図2 遺跡の分布

| No. | 遺跡名       | No. | 遺跡名     | No. | 遺跡名      | No. | 遺跡名     |
|-----|-----------|-----|---------|-----|----------|-----|---------|
| 1   | 名和中殿遺跡    | 12  | 中高遺跡    | 23  | 東高田遺跡    | 34  | 高田原庵寺   |
| 2   | 門前第2遺跡    | 13  | 名和衣装谷遺跡 | 24  | 茶畑第2遺跡   | 35  | 大塚屋敷遺跡  |
| 3   | 門前上屋敷遺跡   | 14  | 古御堂遺跡   | 25  | 塚田遺跡     | 36  | 栃原窯跡    |
| 4   | 名和飛田遺跡    | 15  | 南川遺跡    | 26  | ハンボ塚古墳   | 37  | 上寺谷遺跡   |
| 5   | 名和小谷遺跡    | 16  | 大塚第3遺跡  | 27  | 茶畑古墳群    | 38  | 茶畑六反田遺跡 |
| 6   | 押平尾無遺跡    | 17  | 高田第10遺跡 | 28  | 高田古墳群    | 39  | 名和乙ヶ谷遺跡 |
| 7   | 古御堂金蔵ヶ平遺跡 | 18  | 文殊領屋敷遺跡 | 29  | 門前古墳群    | 40  | 富長城跡    |
| 8   | 上大山第1遺跡   | 19  | 大塚塚田遺跡  | 30  | 富長山村古墳群  | 41  | 長野城跡    |
| 9   | 角塚遺跡      | 20  | 大塚塚根遺跡  | 31  | 坪田古墳群    | 42  | 門前礎石群   |
| 10  | 高田第4遺跡    | 21  | 茶畑第1遺跡  | 32  | 豊成古墳群    | 43  | 浜ノ坂遺跡   |
| 11  | 茶畑山道遺跡    | 22  | 押平弘法堂遺跡 | 33  | 古御堂笹尾山遺跡 |     |         |

【参考文献】

名和町誌編纂委員会 1978『名和町誌』

名和町教育委員会 2003『押平弘法堂遺跡』名和町埋蔵文化財発掘調査報告書第32集

鳥取県埋蔵文化財センター 1986『鳥取県の古墳』

鳥取県埋蔵文化財センター 1988『旧石器・縄文時代の鳥取県』

鳥取県埋蔵文化財センター 1989『歴史時代の鳥取県』

竹内理三ほか 1982『角川日本地名大辞典31 鳥取県』鳥取県角川書店